手賀沼周辺田園風景の維持・管理・活用

手賀沼トラスト
代表　日暮　朝納　　千葉県

（はじめに）

タカラ・ハーモニストファンドから助成金を頂き、それを元にして行ってきた前年度の活動を大きく①樹林地の管理作業②農作業体験活動③イベントの開催④会報の発行の４つに分けて報告します。また、それ以外の活動で、特に記す必要があると思われるものについては⑤その他の活動として項目を設けました。

１樹林地の管理作業

作業日数…５日

参加人数…63名

①下草刈り・間伐

管理の行き届かない樹林地の下草や間伐を行い、２次林としての機能の確保や地権者の負担を緩和すること等を目的に行った。

下草は主にアズマネザサで、カマや刈り払い機を使い刈り取った。刈り取った下草などは堆肥置き場へ運び、糠などと混ぜ発酵させた後、有機肥料として今後利用していく。間伐した樹木等は杉や孟宗竹が中心。それらを鋸、鉈、チェーンソーなどを使って伐採した。特に孟宗竹は樹林地の大半を占めるまでに生育しており、今後も定期的な間伐が必要。

②散策路作り

手賀沼トラストの管理対象となっている根戸城址の樹林地に散策路を作り、樹林での活動をしやすくすることが目的。

間伐した杉を段や杭として使い、歩幅に合わせ、階段を作った。成果がすぐに分かる楽しい作業で、慣れるとあっという間に階段が出来上がっていった。

③苗木の植樹

竹などを間伐し、明るくなった林縁部に花の目立つ樹木（ソメイヨシノ等）を植え、トラスト活動のシンボルの一つにした。いずれ、成長して花を付ければ、城址で花の宴ができる。合計６本の苗木を植えた。

④椎茸のホダギ作り

間伐したクヌギを使い、椎茸のホダギを作った。１ｍ程の長さにしたクヌギ30本に、約500個の椎茸菌を打ち込んだ。山の幸が沢山穫れるような樹林地にしていきたい。

２農作業体験活動

作業日数…10日

作業人数…85名

①ソバの栽培・収穫

８月から11月にかけて、秋ソバの栽培と収穫を行った。ソバを栽培することにしたのは比較的栽培が簡単なことや、収穫した後にソバを打って食べるイベントを開催することなどを考えたため。

種蒔き、培土、刈り取り、乾燥、脱穀など全ての作業を行い、収穫したソバの実は6.5kg。この収穫物が後ほど記す「そば祭り」で使われた。

②稲作準備作業

今年度（平成11年度）からの米作りのため、使用する水田の耕地整理を行った。10年近く放置してあった田んぼなので、草取り、荒起こし、畦作りなどの作業を行った。平成10年度の作業で最も重労働だった。

3 イベントの開催

①第一回手賀沼そば祭り

開催日…平成10年12月19日

参加人数…約70名

農作業体験活動の中で栽培したソバを打って、食べるイベントを開催した。この日はソバ打ちだけでなく、竹を利用した食器作り、根戸城址の散策、ソバができるまでのパネル説明、農家による野菜の直売所コーナーなども取り入れた。このような演出により、参加者には地元の味や、地域の楽しみ、生活文化を感じてもらい、農家の人には直売所の売り上げや消費者との交流等も含めて、メリットが生まれるイベントになった。平成10年度のトラストの活動で最も充実した、理想的なイベントとなった。

②第一回手賀沼トラスト展

開催期間…平成11年３月16日～31日

来場者…約100名

手賀沼トラストには、絵画や彫刻等の芸術活動に秀でているメンバーが多いことから、文化との連携をはかる企画として、主に手賀沼を描いた絵画を中心とした、展覧会を行った。今後も継続的に開催する予定。

4 会報の発行

発行回数…６回

発行部数…約50部／回

手賀沼トラストの会報を「沼のほとり」という題名で、９月からおおよそ月に一回のペースで発行した。内容はトラストの活動報告と今後の予定が中心。（添付資料）

5 その他の活動

①手賀沼流域フォーラム出席

開催日…平成11年２月13日

我孫子市、柏市、沼南町の共催で行われる、手賀沼流域フォーラムのパネリストとして、手賀沼トラスト副代表の杉野氏が出席。「手賀沼周辺の農地を保全するためには市民の協力が必要」と、農家の立場から提言を行った。

②東葛まちづくり交流会出席

開催日…平成11年２月20日

柏市や松戸市を含む、千葉県北西部の６市２町のまちづくり団体が相互の連携をはかることを目的に行っている交流会に、手賀沼トラスト運営委員の坂巻が発表者として出席。手賀沼トラストの活動方針と「そば祭り」の事例を中心に発表を行った。

③丸井デパートからのボランティア受け入れ

活動日…平成11年２月18日

参加者…12名（丸井福祉会）

日本ナショナルトラスト協会の紹介で、丸井デパート福祉会の方々を樹林地の管理作業のボランティアとして受け入れた。この日の作業は根戸城址での階段作りと苗木の植樹を行った。丸井福祉会としても緑のボランティアとして社外へ出るのは初めての試みとのこと。その後、このボランティアに参加した社員の方が、手賀沼トラストの会員として通常の活動にも出席している。

④ナショナル・トラストジャーナルへの寄稿

㈳日本ナショナルトラスト協会の機関誌である、「ナショナルトラストジャーナル」の12号、13号へそれぞれ、手賀沼トラストの活動報告を寄稿した。（添付資料）

以上が平成10年度の活動報告ですが、資料として、手賀沼トラストの会報とナショナルトラストジャーナルの原稿を添付いたします。より具体的な活動報告がそちらに掲載されておりますので、ご参考にして下さい。

（おわりに）

タカラ・ハーモニストファンドから50万円もの助成金を頂き活動を始めた当初、どこまで具体的な

成果を残せるか、メンバーの誰もが一抹の不安を抱いていました。それでも「手賀沼周辺の自然空間を保全したい」との意識のもと、メンバーの知識や技術、労力などの提供によって、何とか実績を残すことができました。これもひとえに、タカラ・ハーモニストファンドからの助成のお陰と、深く感謝申し上げる次第です。

今後とも、助成を頂いた市民活動として地道にそして積極的に、活動を行ってまいりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

手賀沼トラスト

事務局　千葉県我孫子市白山二丁目三一一三（坂巻）
TEL／FAX　0471－82－2268
活動開始日　一九九八年八月一六日

地域の自然をみんなで守り育てていく。

手賀沼は千葉県の北西部、我孫子市・柏市・沼南町にまたがる、広さ六五〇ヘクタールの湖沼です。東西に細長く伸びた沼の周囲には水田と樹林地が連なり、首都圏三〇〜四〇キロメートル圏内ほとんど例を見ない、美しい自然景観が広がっています。また、大正時代には、この沼のほとりに志賀直哉や武者小路実篤らの文人墨客が移り住み、多くの文学作品が生まれた文化的価値の高い土地でもあります。その一方で、手賀沼流域の市街化が進み、沼の水質は既に二〇年以上、日本ワースト一を続けています。また、沼周辺の農地や樹林地の開発圧力も高く、年々、自然環境が悪化しているのが現状です。

この手賀沼周辺の自然環境をどのようにすれば永続的に保全することができるのか。昨年（一九九七年）から、四〜五人のメンバーが中心になり、手賀沼トラストを立ち上げるまでの議論を重ねてきました。いわゆる反対運動や行政への圧力団体では、この問題は解決しません。市街地と密着した広大な農地や樹林地を保全していくには、その自然を活用したより積極的な地域活性化策、とでも言うべき活動をしていく必要があります。別な言い方をすれば、手賀沼トラストとの関わりによって、樹林や農地を持っている地権者に様々なメリットが生じる。その仕組み作りをしていかなければならない、ということです。

そこで、手賀沼トラストは次のような目的を掲げました。「市民と自然とのふれあいの場の提供、農業を中心とした地域の活性化、生活文化や芸術活動とのふれあいなど、様々な活動を通して、手賀沼周辺の樹林地、農地や史跡を保全することを目的とする。

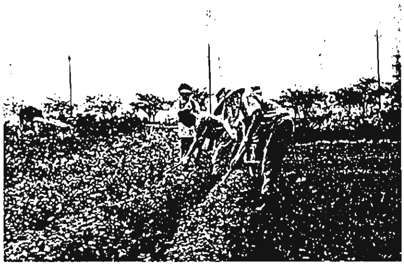
そして、この目的を実現するための活動として、①樹林地の保全・自然体験活動②農地の保全・農作業の体験活動③文化イベントの開催、の三つを柱としました。樹林地での活動は、下草刈り、間伐、散策路作りなどのほか、椎茸の栽培や竹林の管理などを考えています。農地での活動は、遊休農地を借りて稲作をしたり、ソバを育てたりする農作業の他に、直売所の運営も考えています。イベントは、自分たちで育てたソバを打って食べるソバ祭りや、餅つき大会などの他、手賀沼周辺の作家による絵画や彫刻、陶芸などの展覧会を催していく予定です。

私たちは上記のような目的、活動方針を持って、今年（一九九八年）八月から実践的な活動を始めました。まずは、会の代表である日暮氏（我孫子市根戸）の樹林地と農地を借り、樹林地では下草刈りと竹の間伐を、農地ではソバの種蒔きを行いました。この樹林地には根戸城址と呼ばれる史跡があり、そこまでの散策路を作る第一歩として、下草を刈り、竹を伐採しました。

汗を流すだけのボランティアではなく、参加者に楽しみを与えよう、というのが私たちのモットーでもあります。義務や使命感だけでなく、自然とふれることの楽しみを実感する。自分たちの地域にはこのような楽しみがあるということを知ってもらう、これもまた、手賀沼トラストのねらいです。それが活動の継続性にもつながってくるとも考えています。そういった意味で、農地にはまずソバを植えることにしました。なぜならば、ソバには、収穫後に自分たちでそのソバを打って、食べるという楽しみがあるからです。

ソバは台風の影響を受けながらも順調に成長し、無事、刈り取りを終えました。暫く乾燥させた後、脱穀、製粉、ソバ打ちです。自分たちが育てたソバがどんな味となるのか、今から楽しみです。

また、樹林地と農地とを結びつける拠点として、小さいながらも堆肥場を作りました。樹林から出る落ち葉や下草を堆肥場に持っていき、糠と混ぜて発酵させ、有機肥料を作ります。そして、その肥料を農地に還元していく予定です。昭和三〇年代までは当たり前のようにしてあった、樹林地と農地のつながりを新しい手法で復活させることも、田園風景の保全には不可欠だろうと、私たちは考えています。



収穫が楽しみなソバを育てる

私たちの活動はまだ始まったばかりで、ここからどのような成果が生まれてくるのか、見えてきません。しかし、この地域の自然を保全して行くために、何かことを起こさなければ、何も生まれてこないのも事実です。地域の自然を地域みんなで守り育てていく。そんな自立した仕組みを作っていきたいのです。そして、このような活動によって、手賀沼の水が今よりもずっときれいになり、水辺で遊ぶ子供たちの歓声が、この地域の象徴になることを夢見て、手賀沼トラストの活動を続けていきたいと思っています。

手賀沼周辺の田園風景

23

「ナショナルトラストジャーナル」No.12（'98.11.25発行）より抜粋

1998年9月発行　手賀沼トラスト便り第1号

ー沼のほとりー

8/16のスケジュール

8:30　集合
9:00　ソバの播種
9:45　下草刈り
10:15　休憩
10:30　間伐、枝下ろし
11:30　作業終了ー乾杯
12:30　解散

平成10年8月16日。記念すべき手賀沼トラストの活動第一回目。曇天の中、12名の参加者が農作業と樹林の管理作業に汗を流しました。

農作業ではソバの種を5条にまきました。一条の長さは20〜30㍍、条と条の間隔は40㌢程度です。ソバの種類は「信濃一号」という秋ソバで、収穫までの期間はおよそ70〜80日程度だそうです。ソバの種まきのポイントは、播き溝は浅くし、覆う土も薄くすることです。また、痩せた土地でも出来るので、今回は肥料をやらないことにしました。できたソバはみんなで打って食べる予定です。収穫が今から楽しみです。

樹林地の管理は根戸城址への上がり口付近の下草（アズマネザサ）刈りと間伐、枝下ろしを行いました。間伐は主に密集してしまっているタケ（孟宗竹）を鋸、鉈、さらにはチェーンソーを使って伐採しました。みんなが汗を流した甲斐があり、林内は明るく、さっぱりとしました。また、林内からの手賀沼の見晴らしもよくなり、一同充実した気分になりました。ここから根戸城址への散策路（階段）や柵を作っていく予定です。伐採した樹木や下草は今後、散策路づくりや竹細工の材料に使ったり、肥料として畑にまいたりしていこうと考えています。

ソバの種をまく

下草刈り・間伐に汗を流す

作業終了後、記念撮影

参加者　日暮朝納・満子、野口誠夫、遠藤織太郎・洋子、寺田太郎・久美子、正田賢一、田崎末興、笠井文夫、杉野光明、坂巻宗男

編集・発行　手賀沼トラスト事務局
〒270-1154　我孫子市白山2-13-13　tel/fax　0471-82-2268（坂巻）

ー次回の予定については裏面をご覧下さいー

1998年10月発行　手賀沼トラスト便り第2号

ー沼のほとりー

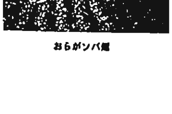
9/20のスケジュール

8:30　集合
　ソバの土寄せ
9:00　花の種蒔き
　堆肥場整備
10:00　休憩
10:15　堆肥場整備
　田圃の草刈り
11:30　下草・落葉収集
　堆肥作り
12:00　作業終了

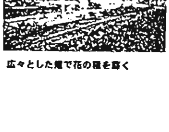
平成10年9月20日。厳しい残暑にもめげず、この日も農作業や堆肥場の整備に10名のメンバーが参加しました。

ソバは前回作業した8/16以降、順調に成長し、2週間もすると赤い茎に小さな白い花を咲かせました。その後、台風5号の風の影響を受け、茎が揃いも揃って地面から45度程度の角度に傾いてしまいましたが、生育には問題ないだろうとのことなので、一安心です。この日は、前回のソバ畑の隣に日暮さんが蒔いた、もう1区画分のソバの土寄せ（培土）をしました。培土の目的は茎が倒れるのを防ぐ、水はけを良くする、土の養分を吸収しやすくするなどです。初めてクワを手にした人もいて、農家のようにはいきませんでしたが、短時間で土寄せは終了しました。

堆肥場の整備は、1.5m四方の木枠（幅20cm）を作ることと、その木枠を置く場所の地ならしです。まず、既に用意しておいた杉板の長さを合わせ、金具で固定し、木枠を作りました。この木枠の中に落ち葉や下草を入れて、糠を混ぜ、足で踏み固めます。この手順を繰り返し、暫くすると落ち葉などが発酵し、良質の堆肥が出来上がるという寸法です。木枠を置く場所は刈り取った草などを運びやすいように、道路脇の少し低くなった土地にしました。その土地の草を刈り、木枠を置き、周りには菜の花とワイルドフラワーの種を蒔きました。春には堆肥場はきれいな花に囲まれることでしょう。小さいけれどこの堆肥場は、樹林地の落ち葉や下草を堆肥にして農地へ還元するという資源循環の拠点施設です。樹林と農地を一体のものとして捉える手賀沼トラストにとって、重要なシンボリックな場所の一つです。これから大切にしていきましょう。


おらがソバ畑

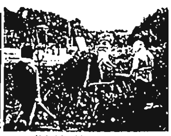
ソバに土を寄せる

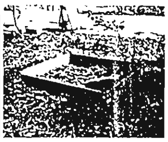

広々とした畑で花の種を蒔く

花は葉牡丹、白妙菊、菜の花、ワイルドフラワー（混合）の4種類を用意しました。菜の花とワイルドフラワーは堆肥場の周りに蒔きました。葉牡丹と白妙菊は発泡スチロールに土と腐葉土を入れて、種を蒔き、日暮さんのビニールハウスで育てることにしました。今後は植え替えの作業が必要になってきます。

田んぼの草刈りは、草刈り機2機を使って行いましたが、予想以上に丈があり、1/4程度しか、刈ることが出来ませんでした。この水田は手賀沼沿いを走る幹線道路のすぐ脇にあり、広さは8㌃（800㎡）程度です。この付近の水田は集水桝と排水桝の接続がうまく行われておらず、ポンプを使って排水していない水田はジメジメといつも水が溜まっている状態です。これから稲を植えるためには、いったん水を排出する必要があり、次回以降、この水田の草刈りと溜まっている水を抜く作業を集中して行う必要がありそうです。

木枠を作る


堆肥置き場の草を刈る


堆肥置き場完成

参加者　日暮朝納・満子、遠藤織太郎・洋子、寺田太郎・久美子、荷見修一・睦子、正田賢一、坂巻宗男

次回の予定
日時：平成10年10月18日（日）
　A.M.8:30〜12:00
場所：日暮朝納宅　駐車場広場
　我孫子市根戸1349
　TEL　82-4048
作業予定：田圃での作業、花の移植
　（長靴持参）　など

今後の予定
定例会：11月15日（日）　A.M8:30〜
　ソバの脱穀など
ソバの収穫：10月下旬〜11月上旬
　日時は決まり次第連絡
雑木林の間伐：11月3日　A.M8:30〜
　日暮駐車場集合→沼南町へ移動

編集・発行　手賀沼トラスト事務局
〒270-1154　我孫子市白山2-13-13　tel/fax　0471-82-2268（坂巻）

1998年11月発行　手賀沼トラスト便り第3号

一沼のほとりー

ソバの収穫・脱穀特集

10/22 のスケジュール
9:00　集合
　　ソバの収穫
11:00　作業終了

11/5 のスケジュール
9:00　集合
　　ソバの脱穀
12:00　作業終了

平成10年10月22日（木）。いよいよソバの収穫です。まず、ソバの実が落ちないよう、丁寧にソバの根元に鎌を入れます。刈ったソバはビニールシートまで運び、その上で片手で抱えられる程度をわらでゆわき、束にします。束をビニールシートに積み上げ、ある程度たまったら、シートごとビニールハウスへ移動させ、天井から吊した棒にかけていきます。このようにして、ソバを乾燥させます。こうすることで、ネズミによるソバの目減りも防げます。

平成10年11月5日（木）。ビニールハウスで乾燥させていたソバの状態も良くなり、ついに最終段階、ソバの脱穀と相成りました。吊していたソバをビニールシートへ下ろし、棒で叩いたり、足で踏みつけたり、手で扱いだりして茎から実を落とします。実を落とし終えた段階で、一緒に混じっている葉や茎と分別するために、「み」と呼ばれるざるのような道具で、ふるいます。次に、「とうみ」と呼ばれる、これまた昔ながらの農機具で、風を送りながら、中身の詰まった実を確保します。その結果、手賀沼トラストの初めての収穫物、ソバの実は約6.5kgとなりました。さらにこれを水で洗い、乾燥させ、全作業を終了しました。

後は、食べるための作業のみです。おらがソバの味は乞うご期待。

丁寧にソバを刈る

わらで束ねる

ソバを乾燥させる

10/18 のスケジュール
8:30　集合
　　花の苗移植
10:00　休憩
　　田圃の様子見
11:00　作業終了

11/3 のスケジュール
8:30　集合
9:00　樹林地到着
　　間伐
10:00　休憩
　　間伐
12:00　作業終了

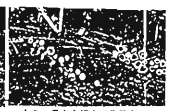
平成10年10月18日。またしても台風がやって来たため、予定を変更し、この日は主にビニールハウスでの作業をすることにしました。先月、種を蒔いた葉牡丹が芽を出し、2cm程度に成長したので、それを一つずつ、小さなポットに移植しました。芽は全部で200本程度ありましたが、ショウリョウバッタに葉っぱを食べられた芽も多く、全てが花を咲かせられるか、分かりません。

平成10年11月3日。この日は沼南の杉野さんの樹林地で、樹木の間伐作業を行いました。間伐する樹木はほとんどが杉です。今から30年ほど前に植えられたものだそうです。樹木の切り方は、まず、倒す方向決め、その方向から、地面と水平に、木の中心より少し奥まで、チェーンソーを入れます。次に、その切り込みの10cm程上から、斜めにチェーンソーを入れ、水平の切り口と交じらせます。この際、できるだけ深めで交差させます。そして、切り抜いた木片をはずし、倒す方向に間隙を作り、最後に、反対側から、その切り込みより少し上にチェーンソーを入れます。暫くするとミシッミシッという音と共に樹木が倒れ、なぜか充実した気分となります。倒した樹木は枝打ちし、3mの長さに切り揃えます。その後、既に杉野さんが伐採していた樹木も含め、根戸城址の階段や柵になりそうなものをトラックに積み込み、この日の作業は終了しました。

爽やかな秋晴れの中で、樹木を間伐していくのは、実に心地よい、男らしい？作業でした。

倒す方向に切り込みを入れる

鉈で楔を落とす


太さ、長さを揃えて集積する

参加者（10/18,22、11/3,5）日暮朝納・満子、遠藤徹太郎・祥子、寺田太郎・久美子、加太肇江、杉野光明、田崎末満、野口滉夫、荷見睦子、正田賢一、笠井文夫、坂手龍一、坂巻宗男

編集・発行　手賀沼トラスト事務局
〒270-1154　我孫子市白山2-13-13　TEL/FAX　0471-82-2268

1998年12月発行　手賀沼トラスト便り第4号

一沼のほとりー

11/15 のスケジュール
8:30　集合
　　階段作り
　　田圃の草刈り
10:00　休憩
10:30　階段作り
　　田圃の草刈り
12:00　終了

平成10年11月15日。今回は根戸城址の散策路作りの第一歩として、入り口付近の階段作りを行いました。

使用する木材は、以前杉野さんの山から間伐してきた杉です。まず、階段の幅（1.5m）に合わせ、木材をチェーンソーで寸断します。また、細い丸太（直径 7～8cm）は杭とするために 60cm の長さに揃え、先端部をチェーンソーで尖らせます。次に、歩幅に合わせ、段にする場所の地ならしをします。地面が平らになったら、先ほど切った丸太を段の先端に置き、その両はじに杭を打ち込みます。杭は丸太と同じ高さまで打ち込みます。それが終われば、再び段の地ならしをして、「一段」の出来上がりです。この日は全部で7段作りました。階段作りは思ったよりも簡単で、すぐに成果も見えるので、おもしろい作業でした。

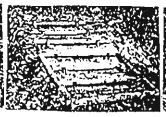
他の人が階段作りをしている中、杉野さんが一人で田圃の草刈りをしてくれました。そのお陰で、田圃もきれいになりました。感謝、感謝。

作業前の状況

チェーンソーで丸太を切る

丸太を置き、杭を打ち込む

すぐに成果が分かる作業


7段出来上がり

作業終了後、一服する

参加者　日暮朝納・満子、寺田太郎、荷見睦子、正田賢一、加太肇江、田崎末満、杉野光明、坂巻宗男

編集・発行　手賀沼トラスト事務局
〒270-1154　我孫子市白山2-13-13　TEL/FAX 0471-82-2268

1999年1月発行　手賀沼トラスト便り第5号

ー沼のほとりー

そば祭り大特集

12/19のスケジュール
9:00　集合（受付）
9:15　主催者挨拶
9:20　スケジュール説明
9:35　作業開始
　　ソバ打ち
　　食器作り（竹細工）
　　根戸城址散策
　　パネル説明
11:00　乾杯
　　自由行動
15:00　閉会

待ちに待ったソバ祭りの日がやってきました。天気は快晴しかも無風。絶好のソバ打ち日和です。参加者は予想を超える61名。冬の穏やかな青空の下、沼のほとりの日暮家の庭先は、ソバを食する人たちで大にぎわいでした。

この日の作業は大きく分けると、ソバ打ち・竹細工・根戸城址散策・パネル説明の4つです。61名が一度にソバを打つことは出来ませんから、まずA～Gまでの7つの班に参加者を分けます。1班の人数は8～9人です。ソバ打ちは、打ち板やめん棒、こね鉢などを4セット用意し、2組の班が一緒になって作業をします。ソバ打ちの先生は、参加者である新澤さん、金谷さん、関口さん、陶さん、日暮さんの5名です。

まず、手賀沼トラストが栽培、収穫したそば粉と強力粉を4:1の割合で合わせ、水加減を調節しながら、手際良くこねます。こね上がったらめん棒を使って、薄く、広く、厚さが均等になるようにのします。されいに広がったら、今度はそれを畳んで、ソバ包丁で切っていきます。慣れにやっているはずなのに、麺がうどんのような太さになってしまう人もいました。

手際よく混ぜる

丸くなるようにこねる

めん棒で延ばしていく

ソバ包丁で切る

茹で上がったソバ

竹の器・箸でソバを食す

ソバ打ち以外の作業としては、裏山の竹を使って器と箸を自分たちで作りました。熱燗用の徳利も作りました。先生は関さん。

根戸城址の散策も行いました。ガイドは野口さん。野口さんには5～6回も山歩きをしてもらいました。お疲れさまでした。

ソバが出来るまでのパネル展示。講師は遠藤さん。直売所のブースも作りました。「杉野さんちのおすそわけ」完売しました。

ソバの他には好評を博した天ぷら、豚汁、赤飯、ちらし寿司等々の料理が裏、草に並び、飲み物に至っては、ビール、日本酒、ワイ

ン、焼酎・・・と、大変心強い限りでした。
多くの方々のご厚意に改めて感謝申し上げます。

編集・発行　手賀沼トラスト事務局（坂巻）
〒270-1154　我孫子市白山2-13-13　TEL/FAX 0471-82-2268